

# 感染症対策とともに毎日の食事・食育の大切さ

これからもまだまだ新しい「保育における食育」の展開が可能です。無理なく継続・発展させていきながら、子どもたちの成長を促す食育（栄養教育・栄養管理）の成果を実感していきましょう。

食育実践のための理論や技法を学び合い、より効果的な食育を目指す（実践力を高める）

- ・ 食育は教育実践の1つであり、教育理論や心理技法等を理解し活用する。
- ・ 情報を全て提供することが食育ではない。情報の伝達や提示の仕方について再考すべき。
- ・ （全て伝えること → 対象者自らが感じる事、調べる事、考える事、楽しむ事）食

食育対象者の現状把握に基づき、明確なる改善目標（介入目的）を設定する

- ・ 対象者の課題は何か、介入によって何をどのように変えたいのか、を明確にすべき。
- ・ 「やらなければならないこと」を明確にする。
- ・ それは同時に「やらなくてもよいこと」を明確にすることでもある。（必要性の検討）
- ・ 実践内容の企画では、「出来ること」と「出来ないこと」を考慮する。（実現可能性の検討）

# 感染症対策とともに毎日の食事・食育の大切さ

これからもまだまだ新しい「保育における食育」の展開が可能です。無理なく継続・発展させていきながら、子どもたちの成長を促す食育（栄養教育・栄養管理）の成果を実感していきましょう。

これまでの経験から「出来たこと（有効性）」や「良かったこと（効果）」を蓄積しまとめる

- ・ 「やりっぱなし食育」からの脱却の鍵は「記録」である。
- ・ 特に、日々の食育実践における管理栄養士・栄養士の「行動」と「思考」の記録が重要。
- ・ 記録があれば、判断が出来る、評価が出来る、改善が出来る、発表が出来る、論文が書ける。

食育を広め多くの対象者への定着を図るために、食育実践者こそが食育を楽しむべき

- ・ 食への興味・関心を高める秘訣は「おいしさ」「楽しさ」「満足感」「感謝」「喜び」「繋がり」等。
- ・ 食育を広め深めていくためには、食育実践者こそが率先して食育の魅力を体現するべき。



# 保育における「食育」の言語化

## 子どもの育ちを支える食～保育所等における「食育」の言語化～

乳幼児期の食事は子どもたちの生活のすべてを支える大切な柱の一つであり、食べること自体が子どもの発達や保育の基盤です。そのため、保育所・認定こども園（以下、保育所等）で行われている毎日の保育のすべてが食育につながるものであり、食事は「生きる力の基礎を育むうえで大切なもの」、「空腹を満たすだけでなく信頼関係の基礎をつくる営み」、「生涯を通じた影響を及ぼすもの」です。

また、保育所等における食育の推進は、「保育所保育指針」や「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」において求められているものです。

[（全国保育士会HPよりDL可能・クリック！）](#)

食育はそうした重要な取り組みであるにもかかわらず、これまで、保育所等においてなぜ食育に取り組んでいるのかといったことや、その必要性については、根拠や理論に基づいた整理はされていませんでした。そこで、全国保育士会では、乳幼児期の食事、そして保育所等における食育の重要性について、保育所等で行っている一つ一つの活動を整理、言語化し、『子どもの育ちを支える食』を作成しました。

保育所等における食育について、保育者が自身の取り組みを他者に説明する際のツール、保護者や地域への発信する際のツールとしてご活用ください。



# Web研修の内容まとめ

## Web研修開催挨拶

- ・ 簡単な自己紹介
- ・ Web研修開催の経緯

## 新型コロナウイルスを正しく理解する

- ・ 正確かつ信頼のおける情報へのアクセスを確保する
- ・ 自然災害発生時と同様に日々の対応を記録しておく

## 職員の安全を確保する

- ・ 何よりも職員の安全を確保すること
- ・ 感染拡大防止対策とともに職員のメンタルケアを

## 給食・食事の衛生管理と新型コロナ対策

- ・ 保育園給食（食事）の衛生管理
- ・ 保育室における食事の時間の対応

## 保護者との共通理解を図る

- ・ 日本国民全員が実践していくべき「新しい生活様式」
- ・ さらに保育園発信型の情報提供を～新型コロナ時代の食育～

## 自治体との連携こそ”密”に行う

- ・ 自治体担当者との共通理解を深めるために
- ・ 新型コロナウイルスはほぼ全ての業種に影響を及ぼす

## 柔軟に対応出来る体と心を育む

- ・ 感染症対策は科学で考え、政治が判断をする
- ・ 正しく怖がることの大切さ

## 新型コロナ対策とともに毎日の食事・食育の大切さ

- ・ 今できることの検討（実現可能性）
- ・ 今やるべきことの検討（必然性）
- ・ すべては子どもたちのために

# 緊急事態における保育園の存在価値

災害時や感染拡大などの緊急事態における保育園の役割についてあらためて考えておきたい

今回の新型コロナウイルス対応においては、一人ひとりの保育職員の「頑張り」や「精神力」に大きく依存しています。

(私は、以前から、自然災害対応における保育園の役割を再考すべきと発信しているところですが・・・)

いまあらためて「感染症が拡大した場合の保育園の役割」を再検討・再構築すべきであり、「緊急事態宣言下においても保育施設を開園しなければならないのか」について各自治体の保育担当者とともに検討していくべきです。

今後さらにもう少し感染拡大が落ち着いたところで、早急に自治体担当者との打ち合わせを進めてください。

今年の秋冬には第2波が来ることも想定されています。その時までには、今後の緊急事態宣言の発令による対応（何をすべきか、何ができるか、何をやめるべきか、など）を明確に定め、保護者にも事前通知をして、共通理解を深めておきましょう。

もちろん、今後、世界中の全ての人々が安心して社会生活を送ることが出来ることを願います。

令和2年6月23日

上越教育大学大学院学校教育研究科 教授（学長補佐）

野口孝則（noguchi@juen.ac.jp）

